

## 貸切バス運賃・料金制度ワーキンググループ 第1回議事概要

日時： 平成24年7月25日（水） 14:00～15:50

場所： 合同庁舎第3号館8階 国際会議室

事務局からの資料説明の後、質疑応答及び意見交換が行われた。概要は以下のとおり。

### 【これまでの経緯及び貸切バス運賃・料金制度とその課題について】

- 運賃・料金については、バス事業のあり方検討会で検討していた時も、バス会社の中でも様々な意見があって、なかなかまとまらなかった。このワーキンググループでしっかりと実状を把握し、専門的な検討をしていかなければいけない。
- 貸切バス事業、さらにはバス事業全体をより明るい方向へ持っていくために、どういう運賃・料金制度が必要かということ的前提条件として議論したい。
- 実態としては、現在の貸切バスの運賃・料金制度というのは機能していない。市場原理で運賃が決まっている。
- 必要な費用、すなわち安全のための費用や賃金等を積み上げた形の運賃・料金になっていない。
- 現在の運賃・料金制度が機能していないため、新しい仕組みを作っていかなければいけないということに関係者全員感じているのではないか。
- しかし、具体的な改善案としては、業界の方々もどうしたらいいかわからないという方が非常に多い。
- 1台のバスを走らせるのに原価計算をしていくことで最低限必要となる運賃・料金が出てくるわけだが、現在、その通りになっていない。取引先との関係で言い値で運送せざるを得ないような現状もある。安全を守るためには最低限費用がかかるわけであって、その費用が確保されるような運賃・料金制度でなければならない。
- どのようにチェックすることが実効性があるのか。実効性を持たせることができる仕組みとすることも重要。
- 消費者の利益、良いものを安く求めたいという視点と、法令を遵守して事故を防止できるという視点の両立が最重要で、ここから出発するべき。取引実態等を考えると、バス会社にも旅行業者にも、旅客にも全て事情があるので、おそらく話が進まないだろう。大前提は、旅客の安全な輸送を確保しながら、かつ、法令遵守、事故防止をできる制度をつくること。
- 現在の公示運賃は、その水準が果たして現在の水準として適切なのか考えるべき。
- なぜ今の制度だとうまく機能しないのかということをしちんと洗い出すべき。
- 旅客に安全でかつ快適な旅行をして頂くということが大前提。安全に対する費用はいくらなのか、高付加価値を付けるための費用はいくらなのかと、そのようなものを検証した結果、あるべき運賃・料金が具体的に出てくるのではないか。
- 監査等による法令遵守による安全確保ということが必ずしも完全には機能しないため、運賃・料金でも安全面を見ていかざるを得ないということではないか。

### 【貸切バス運賃算出に係る実態調査の実施について】

- 運転手の労働条件はバスの安全運行にとって重要な要素。運転手の労働条件等も調査の内容に加えて頂きたい。
- バス協会加盟バス会社以外についても調査の対象とすべきである。
- 単価をどのように計算するか、どのような経費がかかるのかということをきちんと調査しなければいけない。
- 市場ごとに調査するのは非常に重要。全ての市場について運賃・料金を的確に收受できていないかという点、実はそうでもない。
- 運輸業としての総収入における人件費の率がわかれば有益。
- 費用の見える化ということ、安全のための費用としてこれだけかかるんだということを消費者に知ってもらうことは、消費者とバス会社との双方の認識の溝を埋めるため、トラブルを回避するために非常に重要。

以 上